砺波カイニヨ倶楽部会報

第十二号

平成十一年十二月発行　発行者 砺波カイニヨ倶楽部　代表幹事　柏樹直樹
事務局　富山県砺波市表町七―二十五　TEL 0763／33／6588
天野一男建築工房内

カイニョクラブ

◇屋敷林の枝落としに汗

平成十一年十月二十四日（日）午後一時より出村忍さん宅（砺波市小杉）にて屋敷林を整えた。その落ち葉や落ち枝は、4トントラックに満杯の量であった。

この日は、東京から浅香五十鈴さん（声楽家）ら2名を含め、十一名と少ない参加となったが、それぞれ分担して母屋南西面の「うっそう」とした屋敷林の下部約二～三メートルの部分の枝葉を整えた。約三時間後には、見違えるようにすっきりとし風通しがよくなった。

また、スギを十本余り間引きし、残した木の成長の手助けをした。

お天気にも恵まれ、参加者一同さわやかな汗をかき、一服のお茶とお餅をおいしくいただいた。

今回切り落とした枝葉は、天野さんのお願いにより「落ち葉や枝葉のリサイクル」（下記参照）に役立てようと、一定の大きさに切ったり、袋づめにした。少し手間と時間がかかった。

作業が終了して、出村さんの奥さんから「本当にすっきりしました。こんなにしていただいて大変感謝しています」と喜んでもらった。また、参加者のひとりは、「これほど汗をかくものとは思いもしませんでしたが、こんな体験をするのも良いことですね」と苦笑しながらの声もきかれた。

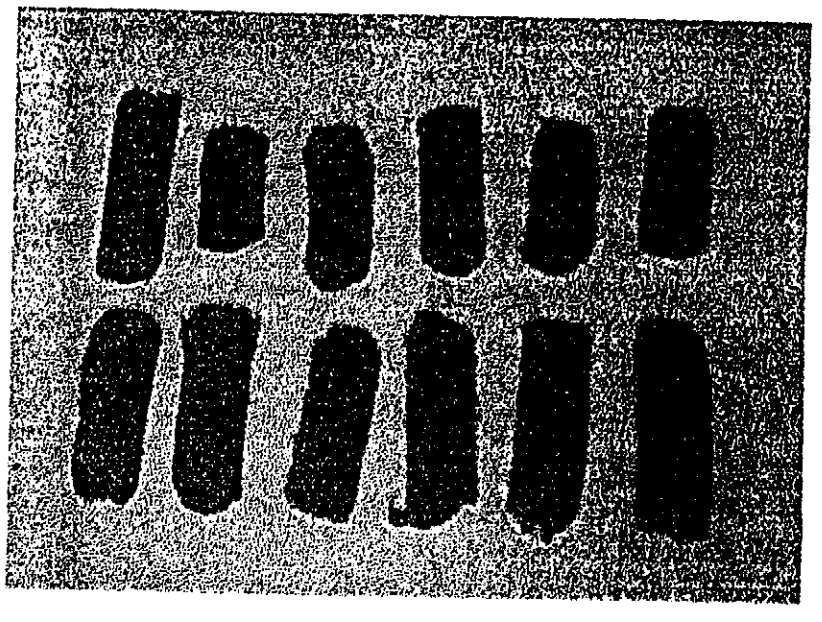
落ち葉の切り落としやスギの間引き

◇落ち葉を固形燃料にリサイクルする実験

事務局長の天野さんが取り組む「落ち葉や枝のリサイクル」

天野さんは、「身近な他生き物と共生できる唯一のカイニョを残したいから、始末にめんどうな落ち葉や枝を、社会に役立つ固形燃料にする事を考えた。試作品は、石炭に近い熱量があり、化石燃料でないため公害性は無く環境にも良い。今後、無公害ボイラーとつないで実験の予定」との事です。

枝を短く切って運ぶ



出来上った固形燃料　直径約12㎜長さ40㎜の筒型状

七輪の中で燃えている様子　すごい炎だ

12-2

◇” 田んぼ博物館 ” 構想

砺波散居村を「博物館」に

県、屋敷林や水路復元へ

富山新聞の記事より

出番に応える時

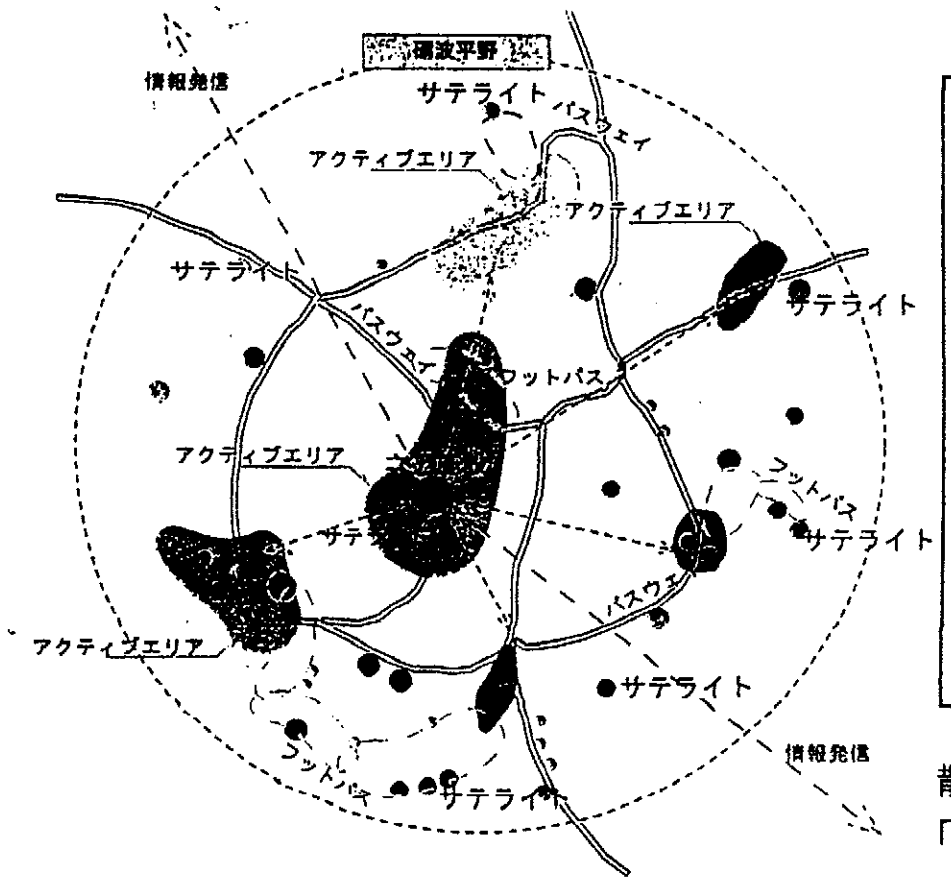
屋敷林と暮らす個々の木との付き合い方の問われる時代だ。木の命は時間の「積み重ね」、人間社会や都市とは全く異なる重みと世界を持つ。

今秋台風十六号が岐阜県山間部に集中豪雨をもたらし鉄砲水の大森林災害を起こした。その一部の流木が氷見沖に漂流し問題となった。四十年前の山の使い方が問われていることだから恐ろしい。

これは屋敷林離れへの警告、そしてカイニョ倶楽部の理念の出番というものだ。

博物館構想にもその魂が求められている。

柏樹直樹



散居村田園空間計画策定委員会の資料より
「散居村田園空間計画」マスターイメージ

富山新聞　平成11年（1999年）11月24日（水曜日）　第19215

となみ野散居村 屋敷林オーナー制創設

田園空間整備事業で県計画案

管理専門家の派遣も

屋敷林や家屋などを生かして整備される散居村
―富山県砺波地域地場、富山新聞社ヘリ「あすなろ」から

民宿、アトリエに活用

住民主導の展開不可欠

カイニョが冬眠する前に

今年の反省と” 田んぼ博物館„ 構想（砺波散居村博物館構想）について

萱葺きの中島家のいろりで薪をたきながらの囲炉裏端談議です。

●お忙しい時期かと思いますが、ぜひご参加下さい。都合で申し込めなかった方でも、当日参加されても構いません。

と　き：平成１１年１２月１２日(日) 午後2時より
ところ：旧中島家（砺波市チューリップ公園内）
会　費：無料
内　容：＊反省会　＊落ち葉の固形燃料化について
　　＊博物館構想について

駐車場は郷土資料館及びﾁｭｰﾘｯﾌﾟ公園駐車場をご利用下さい。

■申込みは　事務局　天野まで　Tel.Fax　０７６３(３３)６５８８